

「 命を守る為の決断 」

静岡県 静岡大学教育学部附属静岡中学校 1年 石井 和希^{いしい かずき}

7月上旬、七夕の前々日のことであった。九州北部が記録的豪雨にみまわれ、甚大な被害が及んだ。そして報道番組や新聞で、現地の様子や被害状況が連日伝えられ、自然の恐ろしさを目の当たりにしたのである。

がけ崩れによりむき出しになった山肌。その土砂により川がせき止められてしまい、行き場を失った泥水が街を飲み込んだ。寸断された道路や流された鉄橋、線路。瓦礫の合間に見える民家の屋根。おびただしい数の流木で埋め尽くされた交差点。流木は更に海にまで達し、漁業にも影響が及んだ。恐怖としか言いようのない濁流。その映像の中には、孤立した地域の方が自宅の2階に避難しながら撮影されたものもあり、撮影者の身の危険がひしひしと感じられた。これらを見て、地球が牙を剥いて襲いかかってきたかのように思えてならなかった。そしてぼくは、思った。

(心が震えるようなこの感情は何だろう。)

少し考え、東日本大震災の津波の映像を見た時の幼い頃の記憶が浮かんできた。当時幼稚園児だったぼくは、この世の出来事とは思えない恐ろしさを受け止めきれず、心の中を洗濯機の渦のように掻き回されているような思いだった。ぼくは、その時と同じような感情を抱いていた。地球が怒っている。人は、自然を前にしてなんて無抵抗なのだろうと…

九州北部が豪雨にみまわれた10日ほど後、静岡県内でも大雨が降り、通学の足である東海道線が一時運転見合わせとなった。ぼくが通学で利用する富士駅からしばらくの区間は、みかん畑や小高い山々と駿河湾が線路沿いに続く、のどかな風景だ。この静岡県らしい風景が、土砂災害にみまわれる危険があると、電車の運転見合わせによって気付くことが出来た。おまけに自分の危機管理能力の低さにも気付き呆れてしまった。そしてこれらのことが大雨による土砂災害について考えるきっかけとなった。

県内の土砂災害について調べてみようと、静岡県のホームページにアクセスしてみた。県のホームページは、興味深い情報が満載の為、ついあちこち寄り道してしまっていたが「交通基盤部河川砂防局砂防課」が県内の土砂災害防止に努めていることがわかった。驚いたことにホームページには、「土砂災害マップ」「土砂災害(特別)警戒区域指定状況について」「土砂災害110番連絡窓口」「土砂災害と対策について」などぼくがあれこれとここで書き記すよりも、とにかくホームページを静岡県内の皆さんに観てもらいたいという一言に尽きる内容だった。

県内には、土砂災害警戒区域が13,500か所。特別警戒区域が10,534か所もあると知ることができた。ぼくの予想を遥かに超えた多さに驚いた。

両親が住んでいた社宅の裏には、屋根よりも何倍も高い斜面があったから、台風の際は怖かったと以前聞いたのを思い出した。もしかしてと思いその場所を土砂災害危険箇所マップで確認してみると、やはり急傾斜地崩壊危険箇所の色付けがされていた。母もそのマップを見て「きちんと調査されているのね。」

と感心していた。当然、ぼくの通学区間である東海道線沿線もこのマップでは様々な危険があると記されていた。このように知るべき情報があるのに今まで知らなかったことがもったいないと思った。情報は、必要な人に行き渡ってこそ活きると思う。ぼく達は、もっともっと知る努力と知らせる努力が必要ではないだろうか。

さて、土砂災害について考えるにあたって大切なのは命を守ることだとぼくは思う。自然の力に立ち向かい土砂災害を防ぐことは出来ないが、命を守る為に出きることはあるはずだ。例えば早めの避難は、建物は守れずとも命だけは守ることができる。では、命を守る為にぼく達がしなければいけないことは、何だろう。

まず事前にすべきこととして、身近な危険箇所を知り、いざという時はどうするか家族で話し合わなければいけない。更に、お年寄りや小さな子など手助けが必要な家族を孤立させない為にも、日頃から近所の方々とコミュニケーションをとりながら防災意識を高められれば地域一帯の安全も向上するだろう。

次に、長雨や大雨の時は、テレビやラジオの気象情報・自治体の情報に注意深く耳を傾ける。更に、自分の住んでいる所だけでなく周辺の気象情報にも注意すると、河川の増水も予測でき、早めの行動がとれるだろう。土砂災害の多くが雨によってひき起こされることをぼく達は、常に忘れてはならない。

最後に最も大切なのは、ためらわずに避難する「命を守る為の決断」ではないだろうか。

平成 29 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)